

全国フェミニスト議員連盟サマーセミナーin 岩国 アピール

2015年夏、私たちは「女性の願いで社会を変える～未来に何を残こしたいのか～」をテーマに、ここ山口県岩国市に集いました。

今、集団的自衛権の行使が可能となる安保法案が衆議院を通過し、日本は戦争に参加する国に変わろうとしています。私たち全国フェミニスト議員連盟は、6月30日に「集団的自衛権を行使する『安全保障関連法案』の廃案を求める決議」を提出しましたが、重ねて、衆議院の野党議員全員退席の中での強行採決に抗議し、この憲法違反の法案の成立に強く反対の意思を表明します。

日本は、恒久平和をめざす前文、武力放棄をうたう9条を含む平和憲法を掲げ、国際社会での信頼を勝ち得てきました。戦争は、紛争地の国土の破壊や市民の殺傷だけではなく、軍隊を派遣した様々な国々の兵士やその家族に対しても PTSD を含む心身の被害を及ぼします。

安倍政権がいかにかいつくろっても、過去の戦争の実態は、決して民を守るものではなく、女性への性被害を含む人権侵害の最たるものであり、最大の環境破壊です。さらに今また、「海底油田」などの新たな脅威を演出しようとしています。

一方、沖縄では、地方自治を政府が踏みにじり、米軍基地の建設のために、人々の暮らしや貴重な自然とが破壊されようとしています。

この2日間、米軍再編計画の中で大きく動いている基地のある街、岩国で、軍事基地が暮らしに及ぼす影響に、この目で触れるとともに、集団的自衛権の持つ意味の愚かさを学びました。

山口には日本の今日的課題が如実に現れていることを確認しました。平和や平等を希う女性の意思が決定の場に反映していないこと、介護保険制度の欠陥と行方のあやうさ、福島以後の再生エネルギーのありかた、などなど、全国フェミニスト議員連盟として、取り組むべき課題を考え合いました。

2日間の学びあいを糧に、日本の海外での武力行使に強く反対し、平和と人権を地方自治の中で活かしていくため、女性議員を増やし、平和な国日本を堅持するために連帯して、活動をしていくことを、ここ岩国の地で誓います。

2015年7月26日

全国フェミニスト議員連盟サマーセミナーin 岩国参加者一同